



図1 日本展会場風景 左から久田多恵、スサン・ヘンリケス、本田みのり（手前）



図3 左から辻ちひろ、サラ・リヒター

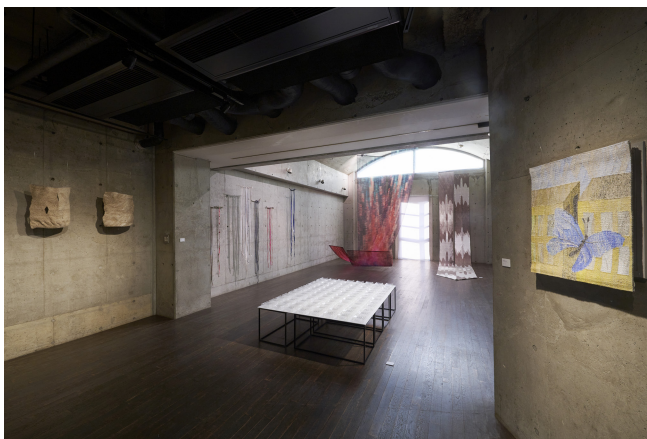


図2 展覧会場入り口より 右はスサン・ヘンリケス小作品



図4 左から出村美英子、木内小織

2021年から2022年にかけて日本とスウェーデンの国際文化交流を目的としてストックホルムと京都にて染織の展覧会を開催しました。通信教育部染織コースを卒業後、スウェーデンへの留学を経て現在も現地で活動中の辻ひろさんを中心となり企画を推進されました。両国での染織作家との交流や染織工房、スクールの見学、ワークショップを行い、大いに刺激を受けました。スウェーデンも日本も伝統的な染織を大切にしながら現代的な表現が試みられています。参加作家はスウェーデン3名、日本4名で、作品はタビーストリーや細く織った紐のインスタレーション、紺の布の空間展示、立体印刷プリンターで糸のように細く重ねたインクによる実験的な作品など、多彩な表現となりました。

出品作家…スサン・ヘンリケス、サラ・リヒター、辻ひろ（通信教育部染織コース卒業生 スウェーデン在住）、出村美英子（通信教育部卒業生）、木内小織、本田みのり、久田多恵
スウェーデン展会場：Slottsgalleriet Ekebyhov 日本展会場：ギャラリートロニスペース



図5 スウェーデンでのミニチュア着物を縫うワークショップの様子